

基本的活動方針

- 教育活動に関する方針
- 失業反対闘争に関する方針
- 消費組合運動に関する方針
- 現下の客観的状況と總評の基本的任務(缺)
- 政治闘争に関する方針(缺)
- 青年運動に関する方針(缺)
- 工場委員会運動に関する方針(缺)

一、教育活動に関する方針

中野 健次 説明

A 教育活動の重要性

(イ)資本主義社會の労働者大衆は、子供の時から様々のブルジョア教育を受け、資本主義的社會環境の中で育つてきている。従つて、プロレタリア先進分子の教育的活動なしには、一般大衆をして眞のプロレタリア・イデオロギーには、一般大衆をして眞のプロレタリア・イデオロギー(マルクス主義)を把握せしめることは出来ない。

(ロ)勿論、労働者大衆は、自分達の置かれてゐる社會的地位の必然的結果として、資本家に對する労働条件改善のための闘争を不斷に敢行する。だが、眞のプロレタリア・イデオロギーは、決して、労働者大衆の、個々の資本家相手の、労働条件改善のための闘争(經濟闘争)の中から自然生長的に生れ出るものではない。この点に就いて、レーニンが言ふ。――

(ハ)「あらゆる國の歴史は次のことを示してゐる。即ち、労働者階級は、それ自身の力を以てしては、單にトールド・ユニオニズム的意識、即ち、労働組合に團結し、雇ひ主と闘争し、政府に向つて各種の政治的的法律を要求することが必要であるといふ自覺に到達し得るに留るのである……」

(ニ)「労働者運動の自然生長性へのあらゆる屈從、および「意識的要素」の役割、並に社會民主黨(後の共產黨)の役割に對するあらゆる過少評價は、そのこと自体によつて、欲すると否とに拘らず、労働者に對するブルジョアのイデオロギーの影響を、更らに濃厚にするものである。「イデオロギーの買取り」を云爲し、意識的要素の誇張を云爲すものは、みな、たゞ労働者が「指導者を氣にかけることなく、自分の運命を自分自身の手に握り」さへすれば